

房総の

文化財

VOL. 35



ISSN 0919-0848
Bosō no bunkazai

平成16年12月24日 財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代) FAX 043-422-8850
<http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp>



CONTENTS

- 速報コーナー 九十九里をのぞむ【鎌倉時代のムラ】
- 遺物紹介コーナー 三輪野山貝塚出土【箱形甕】
- 遺跡今昔物語 君津ICと君津市【三直の遺跡】
- 埋文アラカルト お知らせコーナー
- 埋文レポート

30周年記念展特集号

Part
2



成東町 はちまんじんじゃきた 八幡神社北 (1)・(2)遺跡

八幡神社北(1)・(2)遺跡は、成東町を流れる作田川にそった、九十九里平野をのぞむ半島状の台地にあります。ここに、県内に広く農業用水を供給している両総用水の施設が作られるため、発掘調査が行われました。

調査の結果、古代から中世の大規模なムラの跡が見つかりました。特に中世の鎌倉時代に台地北側の斜面が大がかりに造成されており、多数の掘立柱建物跡や溝跡、さらに道路跡、井戸跡、火葬墓なども見つかっています。今回調査した部分は、遺跡全体からみれば西端の部分であり、主要部はさらに南東側でしょう。

当時、このあたりには、有力御家人である上総氏の一族が館を構えていたとされているので、当遺跡もそれに関係するかもしれません。遺跡のすぐ隣に八幡神社があることも鎌倉武士とのつながりを感じさせます。詳細は今後の整理作業のなかで、明らかになることでしょう。



現在の八幡神社

九十九里をのぞむ 鎌倉時代のムラ



掘立柱建物跡・溝跡



両総用水

調査区遠景

遺跡 今昔物語

君津インターチェンジと 君津市【三直の遺跡】



三直中郷遺跡の木製品

館山自動車道は、2003年に君津インターチェンジまで開通しました。インターチェンジ周辺は「三直」と呼ばれ、君津市内でも遺跡や歴史的な伝承の多い地域として知られています。今回は三直地区とその周辺について、当センターが調査した遺跡を中心に紹介しましょう。

インターがある場所は、平安時代の水田跡や中世から江戸時代にかけての屋敷跡が発見されたことで知られている三直中郷遺跡です。水田跡からは、多くの田下駄、大足などが出土し、屋敷跡からは溝に区画された建物や井戸跡などが発見されました。この遺跡の北側の丘陵には、古墳時代後期の三直台古墳や沖込古墳群、首飾りが出土した古墳時代前期の沖込遺跡1号墳といった古墳があります。そして、さらに

北側には縄文時代後晩期の盛土遺構で著名な三直貝塚、縄文時代中期の石器作りの跡が発見された練木遺跡があります。これらの遺跡は、現在では高速道路となってしまうかもしれませんが、ここを通る際には、往時の姿に思いを馳せてみて下さい。

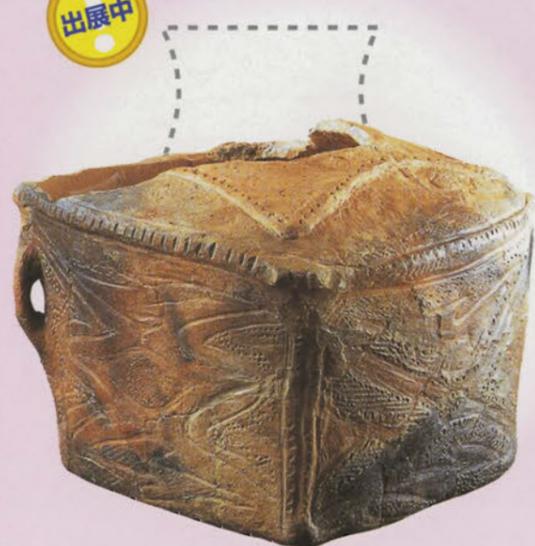
また、調査された遺跡以外にも、当地には中世の城跡として知られる三直城跡や、江戸時代の社殿がのこる八雲神社などがあり、歴史を彩る遺跡や史跡を現在でも見ることができます。さらに足をのぼして、上総を代表する古代寺院の一つである九十九坊廃寺や、道祖神裏古墳などとあわせて、歩いてみてはいかがでしょうか？



三直中郷遺跡の掘立柱建物跡

えっ

縄文時代の角瓶(カクビン)!? 流山市三輪野山見塚出土の「箱形壺」



出展中

今回は、とても変わった縄文土器をご紹介します。流山市三輪野山見塚で出土した、「箱形壺」です。口の部分が欠けていますが、サイコロ口(サイコロ)に頸がついたような不思議な形をしています。文様の特徴から、縄文時代晩期(約2,800年前)のものだと判断できます。

縄文時代晩期の四角形の底をもつ土器は、普通は鉢形で、壺形にはなりません。壺形の土器は弥生時代以降によくつくられますが、縄文時代ではめずらしいものです。お祭りのときに使われた、特別な土器だったと想像されます。

この壺には何を入れていたのでしょうか？角瓶みたいに見えますが、ウイスキーは入ってなかったですよ！



君津IC付近の遺跡所在地



三直中郷遺跡



三直貝塚

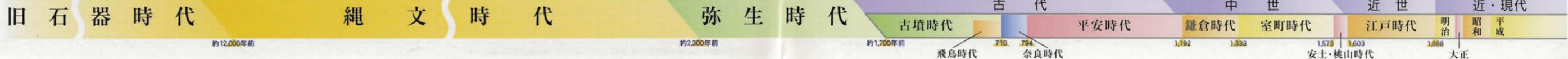


沖込古墳群



沖込遺跡

BC(紀元前) | AD(紀元後)



千葉県遺跡調査研究発表会

県内の埋蔵文化財を調査する法人で組織される「千葉県文化財法人連絡協議会」では、調査成果を広く県民の皆様を紹介するために今年度も「千葉県遺跡調査研究発表会」を下記の内容で開催いたします。

なお、当日は発表遺跡に関する出土遺物の展示や報告書等の頒布も行います。参加は無料です。皆様のお越しをお待ちしております。

日時 平成17年1月30日(日) 10:00~15:20

会場 千葉市文化センター
(千葉市中央区2-5-1ツインビル2号館)
3階アートホール(研究発表会場)
5階市民サロン(出土遺物展示会場)

交通 JR総武本線「千葉駅」下車 徒歩10分
京成千葉線「千葉中央駅」下車 徒歩10分

内容 研究発表会(各30分)

10:10 から (1) 多古町志摩城跡(弥生時代中期の再葬墓)

(2) 木更津市根岸小妻遺跡・根岸古墳群
(弥生時代中期・古墳時代後期の墳墓群)

(3) 横芝町長倉宮ノ前遺跡
(山武地域の弥生時代のはじまり)

13:00 から (4) 流山市市野谷宮尻遺跡
(古墳時代前期の墨書土器)

(5) 市原市山新遺跡(古墳時代後期の古墳群)

(6) 千葉市芳賀輪遺跡(古代の館跡)

(7) 富津市・君津市岩富城跡(中世の城郭)

県内の調査の
最新情報です

千葉県文化財センター30周年 【記念講演会】

卑弥呼がいたところの房総

さる10月3日(日)、県立中央博物館講堂に、明治大学名誉教授大塚初重先生をお迎えし、記念講演会を開催しました。当日はあいにくの天気でしたが、会場は大盛況でした。講師の大塚初重先生は、古墳時代研究の第一人者で、つい先日、上海にて、東アジア文化圏をテーマに、議論を戦わせてきたとお話しされていました。成田にお住まいの先生には、長年にわたり、千葉県内の文化財保護活動について、指導的立場でご尽力頂いております。今回の講演では、邪馬台国の女王卑弥呼についての解釈に触れ、畿内と房総との関わりについて熱弁を奮われました。大塚先生の興味深いお話に、2時間余りの講演がとても短い時間に感じられました。



たくさんのご参加
ありがとうございました

埋文アラカルト

Natural Jewelry

表紙の
説明です

すごく精巧
なんだな

縄文時代の骨格貝製品

今回の表紙は、縄文時代の動物の骨や角などでつくられたアクセサリーを集めてみました。縄文時代には、身体を飾るといふことの他に、社会的な地位を表すためにこうした品々が使われた場合もあったようです。

アクセサリーというと女性のものと思われそうですが、(3)は男性の腰につけた状態で発見されたため、男性用と考えられます。これらのものは

腐りやすいため、貝塚などの特別な環境でなければ残らない貴重なものです。千葉県には貝塚が日本一多くあり、こうしたものがたくさん発見されています。30周年記念展で公開中なので、この機会に是非ご見学ください。



番号	種類	材質	出土地
1	ペンダント	サメ歯	流山市上新宿貝塚
2	ペンダント	イモガイ	千葉市有吉南貝塚
3	腰飾り	イルカ下顎	千葉市有吉南貝塚
4	ヘアピン	獣骨	流山市上新宿貝塚
5	ヘアピン	獣骨	流山市上新宿貝塚
6	腰飾り	鹿角	市原市草刈遺跡B区
7	腰飾り	鹿角	市原市草刈遺跡B区
8	ヘアピン	獣骨	流山市上新宿貝塚
9	ヘアピン	鳥骨	市原市草刈遺跡B区
10	ペンダント	イノシシ牙	流山市上新宿貝塚